



2020年1月21日

## 区民の水源を守り、次世代に豊かな森を残すために 森林環境譲与税を使い、群馬県川場村で **スギ等の放置人工林の天然林化を進めてください**

日本熊森協会は 1997 年に設立され、全生物のため、次世代のために、クマなどの大型野生動物が棲む奥山水源の森を再生に取り組む自然保護団体です。

私たちは、2005 年に関東支部を設立し、2014 年からは東京支部として活動しており、世田谷区にも 168 人の会員がいます。

戦後の拡大造林政策により造られた、スギやヒノキの人工林 1030 万haのうち、3分の2が放置されて荒廃しています。広大な放置人工林は、山の保水力を著しく低下させ、豪雨による土砂災害を引き起こし、多くの市民が花粉症に苦しんでいます。

昨年、森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律が成立しました。

私たちは、奥山の森の深刻な荒廃について、豊富な知見を持つ立場から、森林環境譲与税は、水源や生物多様性の保全と災害防止のため、放置人工林を保水力豊かで災害に強い天然林に戻すことにこそ使われるべきだと考えています。近年の集中豪雨や台風による被害の著しさをみても、その必要性和喫緊性は周知の事実です。

世田谷区では、今年度の森林環境譲与税は川場村との交流事業に使用されました。

川場村は利根川源流に位置し、世田谷区の水源地でもある地域です。森林環境譲与税が倍増される来年度は、この地域交流を水源域の森林保全という観点からさらに深め、川場村と提携して放置人工林の天然林化に取り組んでいただきたいです。

世田谷区のような森林のない大都市の繁栄は奥地に豊かな森があつてこそ持続可能なものになります。しかし、森林が多くある中山間地域は、過疎と高齢化が深刻で放置人工林の天然林化まで手が回らない現実があります。

私たちは、多くの方が住み、多くの化石燃料を使用し、森林の公益的機能の恩恵をより多く受けている大都市こそ、豊かな森の再生に積極的に取り組んでいく流れをつくっていきたいと考えています。ぜひ、環境先進都市をめざす世田谷区に、全国の先陣を切って、他の自治体のモデルとなるような都市が取り組む天然林化事業を作りあげていただきたいです。

### 【要望事項】

森林環境譲与税を活用し、

1 群馬県川場村で、土地を借り上げ、購入、または、川場村と提携をするなどして、水源・生物多様性保全、災害防止等のために天然林化（広葉樹林化）に取り組んでください。

2 環境教育の実施や天然林化と一緒に参加してもらうことなどにより、子どもたちに豊かな森の大切さと保全の必要性を伝える機会をつくってください。